

口腔健康科学実習

Training of Oral Health Science

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 口腔衛生学
- ③ 歯科疾患の予防戦略
- ④ 口腔検査法・口腔機能と歯科疾患リスクの評価
- ⑤ 予防効果とリスクの影響評価の統計学

授業概要

口腔の健康増進を実践するために必要な口腔保健の実践手技を修得する。特に以下の項目については重点的に行う。(1)歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシによる物理的ならびに最新の歯磨剤、洗口剤による化学的プラークコントロールの技術を修得する。(2)唾液や歯垢を用いたリスク評価法と口腔機能評価の技術を修得する。(3)齲蝕、歯周病、口臭、歯の損耗などの口腔検査法を修得する。(4)口腔保健調査、研究による予防効果と疾病リスクの影響評価の実際を修得する。以上の実習により口腔健康科学において最新の研究方法論を身につけることを目標とする。

授業科目の学修目標

口腔の健康は全身の健康に大きく影響しており、日常的に歯科疾患の予防に向けた取組みを支援できるように、口腔の健康増進の実践に必要な口腔保健の基礎を理解する。本実習を通じ、有効な歯科疾患の予防戦略とそのコントロールの基礎に必要な知識・態度・技能を修得し、口腔健康科学において最新の研究方法論を身につけることを目標とする。

授業計画

- ① 歯科疾患予防戦略に関する実習 18コマ
最新の歯科疾患予防方法（プラークコントロール・口腔ケアなど）の手技を教授する。
- ② 歯科疾患のリスク評価に関する実習 18コマ
口腔検査法と口腔機能評価・唾液や歯垢を用いたリスク評価法の技術を教授する。
- ③ 予防効果とリスクの影響評価に関する実習 12コマ
データ尺度に見合った種々の統計的手法を教授する。
- ④ 口腔健康科学に関する研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。

実習担当教員 山本龍生 木本一成 川村和章 宋文群

教科書および参考書

口腔保健実践ガイドブック（第2版） 学建書院 荒川浩久・宮澤忠蔵編集

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、指導教員・実習担当教員による実験プロトコルの確認を受け、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 物理的・化学的プラークコントロール、器質的・機能的な口腔のケアを実践することができる。
- ② 口腔検査の概念を理解し、歯科疾患のリスク評価・口腔機能評価を実践することができる。
- ③ 適切な統計的検定手法を選択し実践することができる。
- ④ 問題を発見し、口腔健康科学に関する研究計画の立案ができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習に関する知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

口腔健康科学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。